

《介護用車椅子を使用して住宅内諸施設の実地検証》

- 1) 車道と歩道とに区別された道路でも、脇道と交差する所では2～3cmの段差があり、この位だと車椅子も後部の踏み板を踏んで前輪をアップさせ走行出来る。3～4cm以上の段差では後ろ向きで後輪を上げて乗り越えなければならない。平坦に見えるアスファルトの道でも実際に車椅子に座ってみるとかなり凸凹しているのがわかる。座ってみて初めて実態を知ることが出来た。

(調布市福祉のまちづくり条例では歩車道境界部の段差は2cmと規定、視覚障害者にとってこの段差は無くすことはできないとしている)



歩道と車道の段差 2cmの所3cm以上の所1cmの所とまちまち

- 2) ホ号棟の三公園(さる山、貝殻、木の公園)は回り道すれば乗り入れは出来る所もあるが、子供の飛び出し防止柵や車・バイクの進入防止用の鉄柵や段差があって、車椅子は容易には入れない。



さる山公園



貝殻公園



木の公園

- 3) 染地小学校の正門はゆるやかなスロープになっており、通行は容易、東門は門扉の部分が6.5cm高くなっており車椅子では通過するのは難しい構造になっている。



正門



東通用門

- 4) 公社事務所の北側入口は段差はないが、銀行側の入口は幅が狭くドア手前の段差が高く後ろ向きでないと入れなかった。

銀行側入り口⇒



- 5) 郵便局の入口自動ドアは全開で77cmと非常に狭く、ドアを入れてATMまでの空間も回転するには狭すぎる。入口ドアの感知機が敏感でちょっと動いても開閉するのが気になる、狭い所ではタッチ式の自動ドアがよい。



郵便局入口 (基準では85cm以上)



郵便局ATM

- 6) 伊勢丹ストアーでは、何列も並んだ陳列棚の角に張り出した縦長の商品ケースがあり通り抜けに多少難があった。レジの通路が車椅子が通るにはギリギリの幅だが、陳列棚の商品は比較的手に取るには無理がなかった。車椅子や身障者のお客に対する、人的サポートの確立を求む。

- 7) 銀行は店内入り口共に無難であった、但しATM自体が車椅子に座った状態では画面が見えず操作ができない、今後の課題か。



銀行ATM⇒

- 8) 12階のエレベーターはドア開放時の幅は80cmと基準値内だがやや狭く感じた、又車椅子用の押しボタンが設置されてなかった、是非設置を要望したい。



12階南側エレベーター⇒

- 9) 団地中央は多摩川住宅にとって核ともいえる存在であって欲しい、子供からお年よりまでが集まって飲食を楽しみ談笑できる店、又住民は自分の手に取って商品を見たくなる、選びたくなる、そういう要望を満たす店があればと思う、今からでもコンビニを出店してみても、活気あるアイデアを期待したい。



- 10) 多摩川土手へのスロープ道路は幅が2mで自転車の利用が多い、車椅子と自転車が交叉するには幅が狭い、安全性を保つにはあと50cm以上広げたい。又スロープが長いので中間に平坦部分があると中休みが出来て安心。スロープの上り口と上がりきった土手上に休めるベンチが有ると理想的。土手沿いの道路に信号機が欲しい。



- 11) ロ号棟の1階にお住まいの自走式車椅子を使用している人に会いました、ベランダ外側にbishamon社製リフトを取り付けていました、南側芝生から西側道路に抜ける専用道を造りそこから出入りしている、機械・道路設置費用が約300万円、その内市助成金が150万円で、公社は設置許可のみで、残りは自己負担とのことでした、外出から帰った彼が部屋に入るまでを見せてもらいました、車椅子に乗ったままリフトがベランダの高さまで上がると車椅子を降りて、ドアに手をかけ力を込めて体を部屋の中へ移動させていきました。若い彼だからこそ出来ることで、誰でもとはいかないようです。その姿を見てエレベーターの無いことが無念に思いました。車椅子でも生活が出来る、外出も出来る、という実証を得られたことは1階というきびしい条件があるものの、今後明るい希望を持たせてもらいました。

